

組織現勢 (4月1日現在)

組合員数	24,959世帯
出資口数	92,619口
3月の新規加入	25世帯
3月の増資口数	141口

No. 329 再生紙を使用しています。



発行所
城南保健生活協同組合
 本部事務局 大田区大森中1-22-1 2階
 TEL (3762) 0266
 振込銀行 さわやか信用金庫大森支店
 口座(普) 0469459
 発行 「城南の保健」編集委員会
 毎月1回発行・定価1部 30円

5月1日 新大田病院がオープンしました

大田病院 院長
田村 直

念願だった新病院の本館ができました。工事による振動や騒音でご迷惑をおかけした近所の皆さま、本当に申し訳ありませんでした。またこの間、応援していただいた皆さまありがとうございました。私たちは皆さまに期待され、信用されていることを感じ、身が引き締まる思いです。特に城南保健生活協同組合員の皆さまには温かい応援の声を送っていただいたり、MRI募金にご協力いただいたりで本当に感謝しております。

工事は残った建物を壊して、別館を建てることに移っています。あと10ヶ月ですが、ご容赦ください。

この間、私たちは新しい病院の役割は何かを考えてきました。限られたスペースとマンパワーの中で私たちが担わなければならないことは何か。

1つは救急医療です。東京都はこれだけたくさんの病院があるのに救急車が病院に着くまで平均47分かかります。いろいろな理由で病院が救急車を断らざるを得ない状況があります。大田病院は断らない医療をめざして、月に100〜150台の救急車を受けています。これからも救急医療に積極的にとりこんでいこうと思います。

139床の一般病棟では内科、整形外科、外科を中心に診療します。急性期、手術、検査など幅広くみていきたいと思います。また、癌などの緩和ケア、在宅で療養されている方の入院などもやっていきたいと思います。近年、大きな病院はDPC(1入院1疾患)という制度を採用しています。私たちはいろいろな病気を持つ方の治療を過不足なく行える病院としてDPCは採用しない方針です。時代の流れ、その時々制度に左右されながらも、この地で一体何が必要なのかを常に考えていきたいと思います。

新しい役割の病棟として回復期リハビリテーション病棟を50床ではじめます。病気の治療の後の社会復帰に向けたリハビリテーションを主に行う病棟です。大田病院だけでなく、ほかの病院で治療を行って、家へ帰るためにリハビリテーションをする方が紹介されてきます。今まであまりおつきあいのなかった病院とも連携していくようになりたいと思います。新しい連携が私たちを育てていくのではないかと思います。

この間、病院の設備問題で、入院治療をされた方には本当に不自由な思いをさせてしまい、大変心苦しく思っていました。新しくなった病院はスペースも広くなりました。今後ともよろしくお願いいたします。



5月1日新大田病院が開設

念願のMRIが 搬入されました

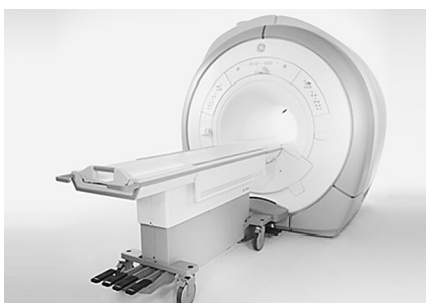
お陰さまで、多くの方々からのご協力をいただき募金・地域共同基金が7400万円を突破しました。

募金 2275万3195円
 基金 5169万1000円
 合計 7444万4195円

MRI募金・基金の到達

(4月16日現在)

しました。地域からの期待も高まっています。「お金のあるなしで、いのちを差別しない」大田病院が快適な療養環境に生まれ変わり、MRIも導入されます。引き続き、MRI募金・地域共同基金へのご協力をお願いします。



▶導入されたMRI

4・3大集会in東京(明治公園) 1万人を超える参加者!



「後期高齢者医療制度はいますぐ廃止!安心の医療実現!」のスローガンのもと、4月3日(土)に開催された集会は、東京・近県からの参加者で会場となった明治公園はほぼ満杯の状態でした。

吉田万三実行委員長の開会挨拶、国会報告を行った小池参院議員は「いま政府内で後期高齢者医療制度の

仕組みを65歳まで対象にする計画も浮上している。姥捨て山の入山年齢を75歳から65歳にするようなものだ」と民主党政権の後戻りの姿勢を批判。壇上からの各界・団体代表の訴えに参加者が大きな拍手で応えていました。



城南3法人から80人の参加

城南3法人からは久しぶりにバス2台で80人を超える参加者でした。集後は明治公園から、花見客で大混雑の原宿駅前を抜けて代々木公園までパレードを行いました。

この集会を皮切りに、後期高齢者医療制度を直ちに廃止させるために、地域でのとりくみを強化していきましょう。

腹八分

最近 お年寄りを送迎する車が目立ちます。かつては童話の世界へいざなう装飾をこらした幼稚園バスが主流でした。しかし今は、それぞれに老人をやさしくいたわるかのごとき名称の老人施設が、幼稚園バスを遙かに凌駕しています。利用者の飛躍的な増大とともに、老人施設がビジネスとしても成り立っていることの証明でしょうか▼戦後の経済成長期を迎えてさまざまな分野での機械化の導入は、人々をかつてのような過重な肉体労働から解放し、医療の進歩とも連動して、人間の寿命を飛躍的に延ばしました。喜ぶべきことです。しかし、せっかくの長寿社会をとりまく環境は不十分です。事実老人施設にも格差社会は容赦なく広がっています。昨年群馬県で東京都の施設に人居しきれない東京都民を収容した施設が火災を起こし、多くの犠牲者を出したことで「貧困ビジネス」が問題になりました。福祉の人々を福祉に満たない環境に置いて、その上前をハネるという悪質なものです。当事者の心の貧しさ以上に、行政の対応の貧しさが問題になりました▼長寿社会は、ひとりでやってきた訳ではありません。機械化の導入や医療の進歩が、健康で長生きしたい、という人類の共通の願いを、人々の協力と努力によって実現させてきたのです。人類は進歩を遂げてきた。だのにみんなの共通の財産である「進歩」の成果を独占する勢力が常に存在してきました。今も格差社会を生み出している勢力です。それを容認する政府の交代が必要です。